

玉手山学園広報

No.66 春号
2011年5月10日
総合学園広報誌

建学の精神「感恩」

人はみな有形無形の数々の恩恵を享受し、今の自分がある。この偉大なほからいに目覚め、深い感動と感謝の念から発する豊かな心と情熱をもって、人の幸せを願う行動するとき、われわれは社会に貢献することができる。

「ありがとう」に出会い気づき、感動・感謝の行動から、また新しい「ありがとう」が生み出されていく。



人は人をどれだけ幸せにできるだろう 学園(仲間)を愛し、柏原の町に親しみ、そして自分を愛す

まもなく平成24年(2012)
学園創立
70周年

東日本大震災の被災者に謹んで
お見舞い申し上げます

3月11日、史上最大の大地震によって、あまりにも多くの大切なものが一瞬にして流されてしまいました。想像を絶する辛く困難な状況の中で、挫けそう

になる気持ちを含んで懸命に支えあいながら、必ずある復興を信じ、早くも明日への一歩を進めておられる、その温かくも強い心に敬意を表します。「私たちにできること、自分でも力になれることはないか」その思いはとても大切です。

学園の新しい仲間

(新入生、新任職員)のみなさま
「ようこそ！」

学園に今年も美しく桜が咲き誇り、穏やかな春を迎えられたことを、深く感謝しています。今年も多くの新しい学生・生徒・園児、教職員を学園に迎えることができました。「玉手山学園によろこそー！」

学園の仲間を愛し、

柏原の町に親しみ、

そして自分を愛す

建学の精神「感恩」、

多くの「ありがとう」に

出会い生みだす

縁あって学園に集まっている仲間たちです。人の幸せを願う豊かな心が集まる素晴らしい学園です。学園(仲間)を愛し、ここ柏原の町に親しみ、そんな自分を好きになってください。その思いをみんなプラスのエネルギーに換え、建学の精神「感恩」を自分流に体得・体现し、多くの「ありがとう」と出会い生み出す学園生活を送ってください。

インヒヨドリもいる美しい学園、
素敵空間を育てよう

学園に耳慣れない野鳥のサエズリ、存在を主張する“流れる美声”に魅せられ探すと、コバルトブルーとオレンジの鮮やかな色彩は「インヒヨドリ(磯鴨)」でした。本来は海岸に棲む鳥ですが学園にようこそ！心ゆくまで学園で過ごし、私たちの耳を楽しませ胸を躍らせて下さい。学園には美しく心を洗う安らぎの場がたくさんあります。学園の「快適、素敵空間」をみんなで育てていきましょう。



理事長 江端 源治



インヒヨドリ
(2011.3.29. 短大3号館屋根)

学園運営基本方針にもとづき、教職員は教育活動を実践

学生・生徒・園児たちを「どれだけ伸ばせるか」が、教育人の仕事、やりがい、喜びです。そのための教育・業務活動の基盤・拠り所が学園運営基本方針です。学園教職員は常にこの方針を念頭におき業務を推進するよう心がけています。判断に迷ったらこの基本方針に照らします。

〈学園運営基本方針〉

社会に貢献し必要とされる魅力ある学園を目指す

～確かな「教育力」と「情熱」が誇り～

1. 学園の使命、各校園の教育目的の共有・実践

建学の精神「感恩」の定着
各校園の教育目的・目標の再確認

2. 学生・生徒・園児を伸ばし育てる ～満足度関西一～

愛情、責任をもって関わり鍛え「入学してよかった、卒業してよかった」の満足感につなぐ

3. 「教育力」の向上、「学園教職員魂」の高揚

教職員の資質・能力、人格の向上
教育に情熱のない教職員に接しられる学生は不幸である

4. こころ豊かな学風の確立、学校愛・母校愛の醸成

高い志、笑顔、あいさつ、心優しいマナーの推進

目が輝き、夢が語り合える学園に

5. 「学び」を支える教育環境、施設・設備等の充実

6. 継承・発展と改革を支える健全な財政基盤の確立・堅持

7. 各校園の相互尊重、信頼、扶助（学園ファミリー意識）

自分の大学名を

言えない学生がいる？

信じ難いことですが、今の日本に自分が入学した学科名はあるか、大学名すら不確かである大学生がいるそうです。その学生は、きつと「自分の意志で大学に来ていない」のでしょうか。ぜひ学ぶ喜び（面白さ）に気づき、自らが学ぶことの素晴らしさを実感してほしいと願います。学校に行かされている、勉強させられているといった受身・被害者的？な気持ちからは、活力は生まれません。これでは、人が本来もつ素晴らしいものが眠ったままになります。これほど勿体無いことはありません。大切な自分の人生、目を輝かせ夢を語りながら歩んでいきましよう。

人は人をどれだけ幸せにできるだろう

大学に保健医療学部、短期大学に医療秘書学科、専攻科を新設

まもなく学園創設70周年、学園を支えていただいている多くの方々に感謝申し上げます。同時に、一層の学園発展向上を期して学園中長期計画（70周年記念事業）を推進中です。今春、短期大学に「医療秘書学科・同専攻科」、大学に「保健医療学部リハビリテーション学科」を開設しました。教職員は、「人は人をどれだけ幸せにできるだろう」という素晴らしいテーマにトライ・チャレンジし、豊かな人間性と確かな知識・技術で1人でも多くの人に明るい希望をもたらす学生を育てたいという意欲に満ちています。70周年を節目に一層教学活動に邁進し、社会に必要とされ愛される学園であり続けたいと願っています。



一番桜(2011.3.22. 勾玉橋北西側の桜)

入学状況

大学・大学院

〔新入生の入学は588名〕

今年度は588名の新入生を迎えることができました。内訳は、学部生557名（1年生529名、3年次編入生28名）、大学院生23名（博士後期課程4名、博士前期課程及び修士課程19名）、専攻科生8名です。今年4月に誕生した新しい保健医療学部リハビリテーション学科（理学療法専攻・作業療法専攻）は、認可の時期が昨年の12月になり、たいへん遅い募集スタートであったにもかかわらず、定員を上回る入学者（保健医療学部で充足率108.3%）を確保することができました。

本学を選んでくれた学生を、いかに育成し、福祉・医療業界を担う人材として社会に輩出するかが本学の命運を握っている

と考えます。今年度も昨年同様に、新しい試みに挑戦し続け、常に前進し続ける大学でありたいと考えます。そのためにも、学園関係者の皆さんの更なる協力をいただき、目的意識を持った志の高い学生の確保に向けて邁進していく所存です、どうぞ宜しくお願いします。

短期大学

〔入学生は292名〕

今年度は292名の新入生を迎えることができました。内訳は、保育科72名、保健科・養護保健コース40名、医療秘書学科・医療秘書コース58名、医療秘書学科・介護福祉コース11名、歯科衛生学科111名と短大全体で、前年比108.6%と、好調な募集状況でした。これは、今年4月から新たに医療秘書学科（医療秘書コース・介護福祉コース）が開設されたことに加え、出願促進への施策として、昨年度よりオープンキャンパスに導入された、オープンキャンパス参加者向け会員制度「関女・夢クラブ」が大変好調であったこと、入試奨学金制度などの見直し等が効果的であったと考えられます。

関西女子短期大学は、入学された学生を、本学のミッション

に従い、学生一人ひとりの満足度を上げ、目標とする就職ができるよう良質の教育サービスを提供することが責務であると考えます。明確な目標・目的を持って志のある学生の確保に向けて、今後も学園関係者の皆様方のご支援ご協力をお願い申しあげます。

高等学校

【新入生の入学は214名】

大阪府の公立中学校の卒業生が前年度より約2000人減という不安の中、今年度入試はスタートしました。

公立高校に人気が集まる中、国立・私立の壁を取り払い学校間で切磋琢磨することにより質の高い教育を目指す11月に橋下大阪府知事が私学の授業料支援拡大大案を発表。これが追い風となり、高等学校への志願者数は専願希望者が188名(昨年度より59名増)、併願希望者が1064名(同57名減)となり、新入生も特別進学Iコース11名、特別進学IIコース151名、総合進学コース52名と5年ぶりに200名を超え214名(同31名増)を迎えることとなりましたが目標とする250名を超えることはできませんでした。専願者が59名増加したにもか

わらず目標数に達しなかった背景には併願者の戻り数が昨年の55名に比べ今年度は29名と減少、特に奈良県の併願者576名(昨年567名)からの戻りが8名(昨年26名)であったのが大きく影響した。大阪府と奈良県の授業料支援の違いもあり、今後、本校の立地条件からより慎重に奈良県対策を立て奈良県及び他府県からの専願確保を考えていかなければ生徒募集はより厳しいものになってくることが推測される。

入学した生徒一人ひとりの満足度を上げ、建学の精神「感恩」を基本とした総合学園の特色を積極的に打ち出し生徒募集に邁進していきますので、今後ともご支援・ご協力をよろしくお願ひ致します。



進路状況

大学・大学院

大学の平成22年度卒業生の進路状況について報告いたします。平成22年度も多少の日本の経済は21年度よりも多少の明るさが見えてきてはいますが、学生の就職については非常に厳しい環境下でありました。

平成22年度 進路状況 (平成23年4月14日現在)

	全 体	社会福祉 学科	臨床心理 学科	健康科 学科	福祉栄養 学科
卒業者	631	315	123	111	82
就職希望者	542	292	71	100	79
就職決定者	520	286	64	95	75
就職決定率	95.9%	97.9%	90.1%	95.0%	94.9%
進学希望者	41	8	30	3	0
進学決定者	39	8	28	3	0
進学率	95.1%	100.0%	93.3%	100.0%	0.0%
その他	47	12	22	10	3

建学の精神である「感恩」を体して福祉施設を中心に、学生の粘り強い頑張りや教職員の最後まで諦めないサポートのもと、危機感をもって対応したことにより本学は前年よりも更に高い就職率を上げることができました。

平成22年度の卒業生は631名、うち就職した者が520名、進学した者が39名でした。

大学全体におきましては就職内定率(就職希望者に対する就職決定者の割合)は、就職希望者542名に対し520名が就職(就職率96%)となりました。

社会福祉学科では、就職希望者292名に対し286名が就職(就職率98%)、臨床心理学科では、就職希望者71名に対し64名が就職(同90%)、健康科学科は就職希望者100名中95名が就職(同95%)、福祉栄養学科では、就職希望者79名中75名が就職(同95%)いたしました。

進学につきましては、39名中8名が関西福祉科学大学大学院へ進んでいます。

大学院につきましては、22名中19名が修了後の進路を確定しました。

次に国家試験の合格状況ですが、社会福祉士122名、精神保健福祉士17名の合格者数となりました。

社会福祉士の合格者数につきましては、全国209大学中、第6位となりました。

管理栄養士の合格者数は48名となり、合格率が76%で、前年より9%アップとなりました。

また教員採用試験(公立・養護教諭)では、のべ7名が合格いたしました。

平成23年度も、教育後援会の協力のもと、本年以上の合格者のアップを目指したいと思っています。

短期大学

短期大学の平成22年度卒業生の進路状況について報告いたします。

平成22年度の卒業生は252名、うち就職した者が219名、進学した者が4名でした。

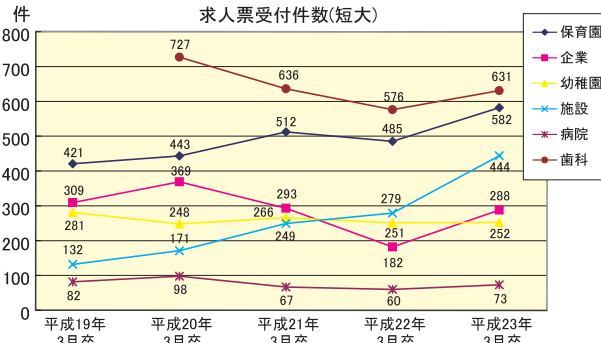
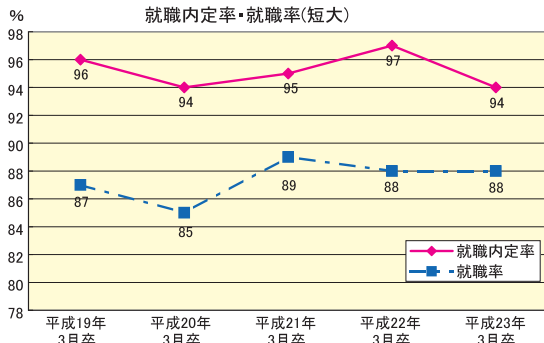
就職内定率(就職希望者に対する就職決定者の割合)は94%、就職率(卒業生総数に対する就職決定者の割合)は88%となりました。

各科の就職内定率と就職率は、それぞれ保育科が100%、91%、歯科衛生学科が97%、93%、養護保健コースが79%、81%、医療秘書コースが89%、80%でした。

進学については4名中2名が関西福祉科学大学へ進んでおります。

また、本学への求人についてですが、総数2270件と、昨年より約400件も多くの件数をいただくことができました。

今年度も引き続き、教員と職



員の協力関係を築き、一人ひとりの学生へ個別対応での就職支援を行い、経済不況を乗り越えて、就職率の向上に努めてまいります。

高等学校

今年度の進路実績は、卒業生178名に対して延べ数ですが、青山学院大学1名、立命館大学1名、関西大学7名、京都産業大学3名、近畿大学17名、甲南大学2名、龍谷大学2名、摂南大学15名、神戸学院大学2名、桃山学院大学8名、大阪経済大学2名、天理大学3名、武庫川女子大学5名、甲南女子大学1名でした。併設大学29名、同短期大学29名で計58名の合格者数でした。

コース別で見ると特進1コースが在籍13名に対して一般入試を中心にのべ32名の大学合格者を出しました。特進IIコースのBも在籍20名に対して一般入試を中心にのべ大学33名、短大2名の合格者を出した。また特進IIコースAや総合進学コースでは、多様な進路目標をもった生徒の希望をほほ叶えることが出来ました。

就職希望者は全体で5名、内訳は学校幹旋での就職内定者した者が4名、未決定者が1名という結果でした。

今年度の実進学者数は四年制大学へ78名(44%)で、その内訳は特進Iコース11名、特進IIコース58名、総合進学コース9名です。以下短期大学47名(26%)、専門学校(看護含む)39名(22%)という結果でした。

専門学校

平成22年度の専門学校の就職内定率は97%でした。詳細は別表の通りです。診療情報管理学科の進学は今春開設の短大専攻科です。介護福祉学科の進学は福科大編入です。

22年度求人票受付件数は昨年を上回り、一昨年の水準に戻しました。

学 科 名	性別	卒業数	特養	病院	老健	診療所	身障	進学	未定	就職率
診療情報管理科	女	7				3		3	1	86%
診療情報管理科	女	3		3				1		
介護福祉科	男女	11	5	1	2		2			100%
理学療法科	男女	19	1		3		1		1	97%
作業療法科	男女	5		5						100%
総 計		71	6	42	5	6	4			97%

学園70周年記念行事

学園70周年記念行事について

学園70周年記念行事実行委員会

本学園は平成24年(2012年)に創立70周年を迎えます。学園では70周年を迎えるにあたり、建学の精神「感恩」の一層の定着推進を図り、常に魅力ある学園、社会に貢献し必要とされる学園を目指すため、学園中長期計画として「70周年記念事業」

を実施いたします。その一環としての記念「行事」を遂行するため平成21年8月に「学園70周年記念行事実行委員会」をたちあげ、様々な角度から実施する行事を検討しておりますが、その概要についてお知らせします。

- 70周年記念式典・祝賀会の開催
 - 平成24年5月11日(金)に開催します
- 70周年シンボルマークの制定
 - デザインが決定しました。
 - 平成23年4月～25年3月まで使用し、70周年を積極的にPRします。
- 70周年記念誌の発行
 - 50周年記念誌以降の20年に重点をおいた記念誌を刊行します。
 - 創立70周年記念事業募金の実施
 - 教育、研究の充実に目的としています。
- 学園フォトコンテストの実施
 - 学園の様子、四季の風景等を撮影した写真を募集します。
 - 募集期間 平成23年4月1日～24年2月29日
- 高校生論文コンクール、中学生バレーボール大会、K'sコンサート
 - 70周年の冠をつけて実施します。

本学OB 高岸治人さん (社会福祉学科2005年3月卒業) 日本学術振興会「育志賞」受賞

大学事務局 総務部

日本学術振興会「育志賞」は、天皇陛下ご即位20年に当たり社会的に厳しい社会環境の中で、勉学や研究に励んでいる若手研究者を支援・奨励するためのものです。

将来、我が国の学術研究の発展に寄与することが期待される優秀な大学院博士後期課程学生を表彰することで、その勉学及び研究意欲を高め、若手研究者の養成を図ることを目的に平成22年度に創設されました。

受賞対象者は、人文・社会科学及び自然科学の分野において、大学院における学業成績が優秀であり、豊かな人間性を備え、意欲的かつ主体的に勉学及び研究活動に取り組んでいる大学院生です。

第1回となる平成22年度推薦状況は、大学長推薦156人、学会長推薦52人の合計206人(重複推薦2件)でした。多数推薦のある中、受賞者17人が選考されました(人文系6人、理工系5人、生物系6人)。
高岸さんは、北海道大学文学

研究科人間システム科学専攻在籍時の研究課題である「利他行動における心の理論の役割」で受賞されました。4月より東京大学医学部で精神科学の研究者として活躍中です。

本学卒業生から、このような

栄えある賞を受賞する研究者が育っているこのニュースは、本学教職員のまたとない喜びです。そして、現在本学で学ぶ将来ある在学生諸君への学生生活支援等、我々の日々の業務における大きな支えになるでしょう。

永年勤続表彰

平成22年度の永年勤続表彰式が去る1月14日に理事長室で行われました。当日は理事長より一人々に感謝状と金一封が渡され、ねぎらいと感謝の言葉がありました。表彰された方は次のとおりです。(敬称略)

勤続25年表彰

該当者なし

勤続15年表彰

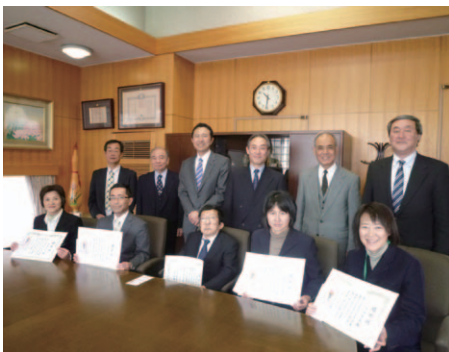
美濃哲郎(大学)

出田めぐみ(専門学校)

中俣恵美(専門学校)

法人本部 総務部

母袋潔(専門学校)
榎本清美(法人本部)



美葉 スマイル・コンテスト

社会福祉学部 教授 乾原正

平成21年度から関西福祉科学大学の「共同研究」に選ばれた「笑顔、挨拶、心やさしいマナー運動展開と学内気風の醸成・変化について」の研究グループではその活動の一環として、第5回美葉祭実行委員会の協力を得て、「美葉！スマイル コンテスト」と銘打ってイベントに参加しました。

その内容は、学生、教職員のみなさんに携帯で撮った「スマイル写真」を送信してもらったものと当日会場に設置した「スマイルスキャン」(オムロン社製)によって高得点を挙げた人の写真を展示し、来場者にもっとも優れた笑顔の写真を選んでいただきました。学園理事長、大学学長、短期大学学長および大学教育後援会会長のご支援を得て、多数の笑顔の中からより素敵な笑顔の人たち6グループ、13人が選ばれ表彰されました。日頃から理事長・学長は笑顔、挨拶、マナーの実践を推奨されていますが、笑顔の効用は、いま、各方面で注目されています。ストレスを解消し、病を癒し、

周りの人たちを幸せにする笑顔にあふれる学園をめざして、コンテストは今後も継続して行う予定です。



スマイルコンテスト表彰式

食育セミナー

京都 老舗料亭 平八茶屋若主人を迎えて

幼稚園 大西英子

去る三月、関西福祉科学大学健康福祉学部、福祉栄養学科主催で保護者対象の食育セミナーを今年も開催して頂きました。

講師には、山ばな 平八茶屋のご主人 園部晋吾様をお迎えし、「子どもに伝えたい もてなしのこころ 日本のだし・料理」をテーマに講演と実演をしてくださいました。

平八茶屋は天正年間、今から四百三十年前、若狭街道の街道茶屋として、洛北に発祥し、以来ずっと続いている老舗料亭です。平八茶屋の名前は夏目漱石の『虞美人草』。徳富蘆花の『思出の記』にも登場しているそうです。

当日は、秘伝ともいえる独特の伝統技で作って頂いた、本物の「だし」を私たちが味わうことができ、全員、目を輝かせ、「幸せ！」「感動！」とうっとりとした心が優しくなりました。

「味覚とは、視覚、触覚、嗅覚からも味わうことが大事で、味覚を育てることは、五感を磨くこと。五感が磨かれることで心



が豊かになる。どうかご家庭でも、お母様の努力でお子様の味覚を育て、五感を磨き、心豊かな子どもにしましょう。」との姿勢と、おもてなしの心を学ばせて頂きました。

実演と講演の後では、「いつでもできるお弁当のちょっとした工夫」をテーマに料理教室の始まり。保護者の皆様には、日々のヒントにと、熱心な中にも、和気あいあいと楽しんで取り組んでおられました。きれいに盛り付けられたお弁当、食べるのが惜しいほど。お味も満点でした。「来年の食育セミナーが楽しみです！」と大好評のうちに終了しました。

「育もう 緑の地球と豊かな心」

法人本部 施設部 田堀富造

昨年の11月1日から12月24日まで学園の全ての学生、生徒、園児及び教職員から、省エネ標語を募集しました。

目的は、地球的目標である地球環境保護(Co2削減)に貢献する

ため標語を募集し、優秀作品を掲示・周知して参加意識、省エネ意識を高揚・実践してもらう為です。

折りしも、3/11の東日本大震災の影響で計画停電の実施など電力不足に対し、関西でも亡くなられた方々への弔意と被災者へのお見舞いの気持ちから節電を意識するようになってい

ます。

学園でも校舎に設置しているネオンサインを消灯してあります。省エネは理屈ではなく、実践です。小さいことからコツコツとご協力願います。

さて、標語は各校園より総計889作品の応募があり、各校園での1次審査、大学生・園児保護者会の30名による2次審査、学園所属長会での3次審査を経て優秀作品、各所属長賞作品の計9作品が選考されました。

表題は、3月22日の省エネ標語表彰式における最優秀賞受賞作品です。

受賞作品を一覧し、表彰式の様子をご紹介します。

賞	標語	応募者名
最優秀賞	育もう 緑の地球と 豊かな心	渡辺 愛美 (高校)
優秀賞	そのOFFが 地球を救う 第一歩	松井萌々香 (幼稚園 保護者)
優秀賞	ムダづかい 水も電気も タダじゃない	岡本 留美 (保健科)
理事長賞	1人1人の省エネが 大きな明日への エネルギー	川北友貴恵 (臨床心理学科)
大学長賞	省エネは 地球を救う 愛言葉	吉田 絢 (福祉栄養学科)
短大学長賞	昔の人が言っていた "もったいない"は たからもの	安田紗杏里 (保育科)
高等学校長賞	ひと部屋に すごす家族は エコファミリー	菅 由美子 (高校)
専門学校校長賞	リサイクル 自分が気づけば利再来	伊庭 美晴 (専門学校)
幼稚園長賞	節約戦隊! ECOレンジャー!!	曾田 優希 (幼稚園 保護者)

(敬称略)

省エネ標語入賞作一覧

「関女★保育フェスタ」で生まれた、だからもの

短大保育科 教授 渡辺由美子

今年2月に実施した「関女★保育フェスタ」では今年もたくさんの方の成果をおさめることができました。

リビエール・ホールのエントランスでお客様を出迎えた「造形作品」は、学生たちが授業で楽しみながら作ったものです。どれもあたたかい心や努力の跡を感じる素敵な作品でした。また、場内アナウンスを担当する

学生の初々しい声とともに幕を開けたステージでは、和太鼓やピアノの演奏、附属幼稚園園児のかわいなお歌、合唱講座受講者のみなさまの深く心に響く歌声・・・と聴き応えのあるプログラムが続きました。

もの”となりました。「支えてくれたすべての人に感謝をした」という内容の歌詞は飾り気のない率直なことばで綴られ、多くの観客が涙して聴いてくださいました。

学生たちの「今」を表現し保育者としてのスキルを培うステージとなるよう、これからも学生たちと共に「関女★保育フェスタ」を豊かに育てたいと思います。

